

2025 年 2 月 7 日

（開催報告）シンガポールにおいて 「東北・新潟県産米の認知度向上・販路拡大イベント」を開催

東北経済連合会（会長：増子次郎 以下、東経連）は、東北・新潟 7 県との官民による広域連携の下、1 月 18 日（土）および 20 日（月）の 2 日間、シンガポールにおいて、東北・新潟県産米の認知度向上および販路拡大を目的に、農林水産物・食品輸出支援プラットフォームシンガポール（構成：JETRO シンガポール、JFOOD0、在シンガポール日本国大使館）※¹との共催により、「東北・新潟県産米の認知度向上および販路拡大イベント」を開催しました。

本事業は、東北・新潟の県産米 7 銘柄とご飯に合う地域産品を出品し、お米マイスターによる講演やワークショップ・試食提供等を通じ、その魅力を訴求することで今後の消費拡大へ繋げるとともに、現地バイヤーとの商談を行い、新たな販路拡大・輸出促進を図ることを目的に実施したものです（令和 7 年 1 月 16 日お知らせ済）。

イベント初日（18 日（土））は、家族連れや若者をはじめ約 90 名が集まり、講演やおにぎりワークショップを楽しんだほか、東北・新潟 7 銘柄のコメの食べ比べでは、ご飯に合う地域産品と組み合わせながら、参加者それぞれ好みの味を見つけていました。特に、帰り際「気に入ったコメを見つけた。このままスーパーでコメを買って帰る」という参加者の声が複数聞かれました。

また、20 日（月）のイベントでは、レストラン・小売店等のバイヤー約 30 名が集まり、お米マイスター等からの説明や食べ比べを実施の上、日本の米大手卸会社・木徳神糧との商談を行いました。

バイヤーからは「現在は外国産ジャポニカ米を使用しているが、これを機会に東北・新潟県産米の使用を検討したい」や「食べ比べてみて、コメの銘柄ごと味の違いを感じた。これまで決まった日本産米を使い続けてきたが、入れ替えも視野に検討したい」など東北・新潟県産米を高く評価する声が多く聞かれ、シンガポールにおいて、東北・新潟県産米の品質の良さ、美味しさを体感いただき、日本のベストクオリティ米として訴求できたものと考えています。

東経連では、引き続き、東北・新潟の強みであるコメをはじめ、魅力ある地域産品の販路拡大・輸出促進に取り組んで参ります。



1/18 イベント開会時
東経連・宮本保彦副会長挨拶



1/18 東北・新潟県産 7 銘柄のコメ
および地域産品などの食べ比べの様子



1/20 バイヤー向け
イベントの様子

本事業は、2023 年 11 月に各県知事等が参加し開催した第 12 回「わきたつ東北戦略会議」※2 において、東北・新潟の農水産物・食品の輸出拡大のため、今後 2～3 年にわたりタイ・シンガポール等にて、新たな販路拡大に向けた連携を進めていくことを確認したことに始まります。

なお、シンガポールにおける「輸出支援プラットフォーム事業」は、従来、日本産品の認知度向上を目的に実施されておりましたが、特定の広域ブロック（東北・新潟）で実施するのは初めてとなります。

1. 事業概要

(1) 開催日：

2025 年 1 月 18 日（土）10：00～17：00…①（主にシンガポール在住の一般消費者向け）

1 月 20 日（月）14：00～17：00…②（主にレストラン・小売店等のバイヤー）

(2) 会 場：①ジャパン・クリエイティブ・センター（4 Nassim Road, Singapore 258372）

②サケプラス（313 Orchard Road #01-27 313@Somerset Singapore 238895）

(3) 共 催：輸出支援プラットフォームシンガポール、一般社団法人東北経済連合会

2. 今回出品した東北・新潟 7 銘柄のコメ／ご飯に合う地域産品

<コメの銘柄>

県名	銘柄	県名	銘柄
青森県	まっしぐら	山形県	はえぬき
岩手県	銀河のしずく	福島県	天のつぶ
宮城県	ひとめぼれ	新潟県	こしいぶき
秋田県	あきたこまち		

<地域産品（令和 7 年 1 月 16 日お知らせ時より、一部品目変更（変更部分下線））>

県名	品目	県名	品目
青森県	青森サーモン	山形県	山形だし
岩手県	CAVA 缶、 <u>三陸産わかめ</u>	福島県	会津みそ
宮城県	<u>のり</u>	新潟県	かんずり酒造
秋田県	いぶりがっこ		

※1（参考）農林水産物・食品輸出支援プラットフォーム

日本産農林水産物・食品の有望な輸出先国・地域において、輸出事業者を包括的・専門的・継続的に支援するため設立。主な構成員は、在外公館、JETRO 海外事務所、JFOODO 海外駐在員。

※2（参考）わきたつ東北戦略会議の概要

東北・新潟の各県知事や各県内大学学長などの産学官金トップで構成する会議体。事務局は東経連（別添）。

以 上

【本件担当】

（一社）東北経済連合会 地域活性化ユニット食・観光グループ 高橋

TEL：022-397-6343 E-mail：m-takahashi@tokeiren.or.jp

東経連のこれまでの地域産品の輸出拡大、促進の取組み等は、以下 URL をご覧ください。

<https://www.tokeiren.or.jp/press-release>（東経連ホームページ）

わきたつ東北戦略会議について

1. 開催趣旨

東北・新潟が直面する共通課題に対し、産学官金トップが認識を共有し、具体的な施策を通して地域が一体となって自立的に課題解決に取り組むことを目指して、東経連が 2018 年に立ち上げた。

2. メンバー

(官) 青森県知事、岩手県知事、宮城県知事、秋田県知事、山形県知事、福島県知事、新潟県知事
 (学) 弘前大学学長、岩手大学学長、東北大学総長、秋田大学学長、山形大学学長、
 福島大学学長、新潟大学学長
 (金) 株式会社日本政策投資銀行 代表取締役社長
 (産) 一般社団法人東北経済連合会会長、副会長

3. 過去開催実績

開催年	開催月日	会議回数	議論テーマ
2018 年	5 月 8 日	第 1 回	東北ハウス、若者の還流・定着、地域産品輸出
	11 月 1 日	第 2 回	東北ハウス、若者の還流・定着、地域産品輸出
2019 年	5 月 14 日	第 3 回	東北ハウス、若者の還流・定着、地域産品輸出、 広域交通ネットワークストック効果、 地域企業への AI・IoT 導入
	10 月 30 日	第 4 回	東北ハウス、地域企業への AI・IoT 導入促進
2020 年	中止	第 5 回	(新型コロナウイルス感染拡大により中止)
	10 月 29 日	第 6 回	ポストコロナ・5 つの提言
2021 年	4 月 21 日	第 7 回	兼業・副業人材活用の重要性
	11 月 16 日	第 8 回	「デュアルライフ東北」の実現に向けた取組
2022 年	5 月 19 日	第 9 回	「デュアルライフ東北」の実現に向けた取組
	11 月 8 日	第 10 回	農産逸品輸出拡大への取組
2023 年	4 月 24 日	第 11 回	ベンチャー／スタートアップとの連携促進
	11 月 14 日	第 12 回	農産逸品の輸出拡大への取り組み
2024 年	4 月 16 日	第 13 回	人口減少問題
	11 月 6 日	第 14 回	THAIFEX への出展報告、人口減少問題



第 12 回「わきたつ東北戦略会議」